

守口市 情報活用能力 育成ステップシート

No	分類	スキル	STEP1(1・2年)	STEP2(3・4年)	STEP3(5・6年)	STEP4(中学生)	
		発達の土台	身体性を伴う具体的な活動・体験と多様な表現活動が学びの中心。ICTは直接体験を代替するものではなく、体験・認識(認知)・表現の質を高める補助的な道具として位置付く時期。 ※STEP1では各教科等を通じた、情報活用能力を含む資質・能力の基盤づくりの段階	抽象的思考への移行期(いわゆる「9歳の壁」)。教科学習が本格化し、仲間の視点を意識し始める時期。	抽象的思考がさらに高まり、役割や責任を意識してリーダーシップを発揮する機会が増える時期。	抽象的・論理的思考が確立し、自我の目覚めにより自主独立の要求が高まり、自治的な活動が可能になる時期。	
		このステップのゴール	「使ってみる・慣れる」(基盤) ー 写真・動画・入力・きまり等の基本操作に触れ、体験や表現を豊かにする道具として原体験を積み 写	「集めて、比べる」 ー 情報を自分の力で探し比べるとともに、共同編集・プログラミング体験・生成AI等、様々なデジタルツールや特性に触れたり選択したりする経験を積み	「整理して、伝える」 ー 情報を目的に応じて編集・発信するとともに、偏りや偽・誤情報をふまえて多角的に判断し、他者に発信する	「判断して、活かす」 ー 情報を吟味して本質的・批判的に評価し、デジタルの仕組みも理解したうえで、責任をもって主体的に活用する	
① 情報技術の活用							
A	ICTの基本的な操作	課題設定	自分のことや身の回りの出来事から疑問を持つ	地域の事象に関する課題を設定できる	社会(日本や世界)の事象に関する課題を設定できる	複雑化する社会課題について、多角的な視点から課題を設定できる	
B		情報収集	・情報を収集する身近な方法(本(まずは教科書、その他に資料集や図書館の本等)・インタビュー・観察・インターネット等)を知り、絵や言葉で記録できる ・本に親しみ、学校図書館のきまりを守って利用できる	・情報を収集する複数の方法(本・インターネット(生成AI含む)・インタビュー・観察・実験・見学・調査・探索・追体験等)を知り、適切なものを組み合わせながら実施し、適切な方法で記録できる ・図書館にある本の分類や、各種施設の特徴や辞典・地図等の資料の使い方がわかる ・信頼できる情報源を選んだり、情報の出どころ等を確認したりできる	・調査を選択し、情報を適切に収集・検証できる ・日本十進分類法(NDC)等を理解し、目的に応じて図書館・博物館等を利用できる ・複数の情報源について、出典等を記録しながら収集できる	・統計的な調査も含めて、必要な情報・資料の種類を明確にしながら調査を設計・実施できる ・レファレンスサービス等を活用し、複数の資料やメディアを比較しながら、課題解決に向けて各種施設を活用できる ・情報やメディアの特性をふまえ、多様な方法から目的に応じて選択し、効果的に情報収集できる	
C		整理・分析	・絵や図、簡単な表やグラフ(思考ツールを含む)を用いて情報を整理できる ・共通点と相違点、事柄の順序等、情報と情報の関係を捉えられる	・カードや図・表・グラフ等(思考ツールを含む)を使って、集めた情報を整理できる ・複数の情報を比べて、傾向や変化、共通点・相違点を見いだすことができる ・全体と中心等、情報と情報の関係を捉えられる	・複数の図・表・グラフ等(思考ツールを含む)を比較しながら、情報を整理できる ・原因と結果等、情報と情報との関係を捉えられる ・得た情報について論理的に考察できる	・目的に応じて図・表・グラフ等(思考ツールを含む)を使い分けながら、複数のデータを統計的に整理・分析できる ・意見と根拠、具体と抽象等、情報どうしの関係を捉えることができる ・収集した資料を多面的・多角的に考察し、新たな意味を見いだすことができる	
D		まとめ・表現	・伝えたいことを一つ決めて、表現しようとする ・複数の情報から、わかったことを簡単な言葉でまとめられる ・絵や写真、音声・手書き入力等による文字、紙芝居・絵カード・ペープサート等を使って、自分なりに表現できる	・伝えたいことを整理し、理由やわけを含めて表現できる ・複数の情報を比較・関連付けて、新たな発見をまとめられる ・相手を意識して、新聞やポスター、リーフレット、スライド等の伝え方を選べる	・情報収集や整理・分析を通して分かったことから、伝えたい主題を明確にできる ・理由や根拠を示しながら、筋立てて説明できる ・体験から得た情報と資料を関連づけて、報告文等にまとめられる ・目的や相手に応じて、スライド・文書作成・表計算ソフト等の複数のソフトを使い分け、ポスターセッション等でも表現できる	・主題を明確にし、根拠に基づいて論理的に説明できる ・分かったことや自分の考えを、まとまりのある形で表現できる ・相手や目的に応じて、Webサイト等も含めた効果的で創造的な表現方法を選び、工夫できる	
E		振り返り・改善	・情報活用のお組を振り返り、自分の考えや感想を述べることができる ・撮影した写真や記録を見返ししながら、自分の気付きや変化・成長に目を向ける	・情報活用のお組を振り返り(できたこと・できなかったこと等)、改善点を見いだせる	・情報活用のお組を振り返り、効果を見いだせる ・情報の集め方や整理の仕方等について、うまくいった点や工夫した点を具体的に振り返ることができる ・情報活用を通して、新しくできるようになった操作や工夫に気づくことができる	・情報活用のお組を振り返り、観点を決めて評価し、改善できる ・情報収集・整理・発信の仕方について、自分が身に自覚し、言葉で説明できる ・今回の情報活用のお組を、次の学習や生活での情報の集め方・使い方・どう生かすか考え、調整しようとする	
F		入力	起動や終了、ログイン・ログアウト、写真撮影、文字の音声・ひらがな入力や手書き文字自動変換機能等の基本的な操作ができる	・キーボードで漢字や句読点等を含めた文章入力ができる 又は 別の方法で同程度の文章入力ができる(20文字程度/1分間) ・ホームポジションを意識しながら入力しようとする	キーボードで漢字や句読点等を含めた文章入力ができる(60文字程度/1分間)とともに、状況に合った入力方法を選択できる ・コピー・貼り付け・元に戻す等、基本的なショートカットキーを知り、使うことができる	・キーボードで漢字や句読点等を含めた文章入力ができる(100文字程度/1分間)とともに、状況に合った入力方法を選択できる ・基本的なショートカットキーに加え、自分がよく使う操作のショートカットを見つけて使い、効率的に入力・作業できる	
G		アプリケーション等の使用・操作	標準仕様のWebブラウザやカメラ機能等、基礎的なアプリケーションを操作できる	標準仕様の文章作成、表計算、スライド作成、Webアンケートアプリケーションやノーコードのプログラミングソフトを操作できる	目的に応じて様々なアプリケーション(左記に加え、録画・録音、動画編集等)を選択し、操作できる	複数のアプリケーションを関連づけて操作できる	
H		検索	インターネット上の情報を閲覧することができる	・キーワード検索ができる ・AI検索と実際のWebサイトに書かれている情報は、違うことがあると知る	・必要に応じたキーワードを複数用いて検索ができる ・AI検索には、誤りや古い情報が含まれる場合があると理解する	目的に応じて、キーワード検索・AI検索等を適切に使い分けられる	
I		保存・クラウド活用	・写真や授業で使ったファイル等の呼び出しや保存ができる ・写真や作品等のデータに、名前や日付等をつけて整理できる	クラウドを用いて、ファイルの検索・共有・共同編集ができる	クラウドを用いて、ファイルやフォルダの管理ができる	規則性に合ったフォルダをつくったり、圧縮やパスワード設定等の管理操作ができる	
J		端末の機能・基本設定(アクセシビリティ等)	画面の明るさや音量を変えると見え方・聞こえ方が変わること気づく	文字の大きさ、音声読み上げ、色の調整等、いくつかの設定を実際に試してくらべ、自分に合った設定を選んでいる	自分に合った設定を選べるとともに、相手や目的に応じて、文字を大きくする・音声で伝える等、伝え方や設定を工夫できる	自分に合った設定を選べるとともに、相手や場面に応じて、スクリーンリーダー・字幕・拡大表示・音声操作等の支援機能を適切に選択・設定できる	
② 情報技術の適切な取扱い							
K	法や制度	法や制度(ルール・権利・個人情報等)	・写真や作品、名前等を撮影したり伝えたりするときには、相手の許可等、守るべききまりがあることを知る ・名前や住所等、人に勝手に伝えてはいけない個人情報があることを知り、適切に扱う	・他人が作った情報を使うときは、URL等を含めた引用・出典を書く必要があることを知る ・自分や他者の個人情報や安易に提供したり、作品等に掲載したりしないことの重要性を理解する ・デジタルではコピーや書き換えがしやすいことと、作った人の権利があることを知る	・著作権・肖像権・個人情報等、情報に関する権利の種類と重要性を理解できる ・身近な場面で、どの権利・きまりが関係するかを説明できる ・知的財産を守る理由や、守られない場合の影響について考えることができる	・発信・利用・共有の場面で、権利や法・制度の観点から情報社会に及ぼす影響を説明できる ・法・制度が権利を守ると同時に、新たな表現やサービス創出の条件にもなることを理解する(制約と創造の両面) ・新しい技術やサービスを構想・改善するとき、関係する権利・制度上の留意点を指摘できる ・生成AIが作った文章や画像等について、利用ルールや権利の扱いを確認し、説明できる	
L	②	倫理(マナー・責任ある利用等)	友達やまわりの人が困ること・いやな思いをすることを考え、他の人の端末や情報を丁寧に使おうとする	・共同編集等で、相手が困らない使い方(勝手に消さない・書き換えない等)を心がける ・写真の公開や書き込みが、自分や他人にどのような影響を与えるかを考える ・むやみに送る・見せる・公開すると、相手を傷つけることがあるとわかる ・情報や情報技術を、生活に生かそうとする	・クラウド等でのやり取りで、相手や場に応じたマナーを守って行動できる ・自分の行動が社会にどのような影響を与えるかを考え、安易に公開・拡散しない等責任ある使い方ができる ・学んだ権利やきまりをふまえ、場面に応じて適切に判断して使おうとすることができる ・情報や情報技術を、よりよい生活に生かそうとする	・権利や法・制度の理解とリスクをふまえ、責任をもって適切に判断・行動できる ・インターネット上のトラブル等をふまえ、情報社会で守るべき責任や行動を考え、実践しようとする ・誤情報や傷つく内容を拡散しない、安易に公開しない等、社会への影響を考えて行動できる ・社会は互いにマナーや責任ある行動で成り立つことをふまえて行動しようとしている ・情報や情報技術を、持続可能な社会づくりや新たな価値創造に、責任ある形で生かそうとする	
M	安全	安全(セキュリティ・情報の吟味等)	・ルールを守って、端末を正しく使うことができる ・IDやパスワードをむやみに人に教えないことを知る ・正しくない情報(偽・誤情報)があることを知る	・パスワードを自分で変更する・人に教えない等、情報を守る基本的な方法を知る ・クラウド等で共有する前に、だれに見えるか(共有範囲)を確認する ・不審なサイトへのアクセスや不審なアプリのダウンロードに危険があることをわかったうえで利用できる ・あやしいメッセージやリンクを開かない・返事をしない等、自分を守る行動ができる ・情報の特性の理解をふまえて、あやしい情報や正しくない情報(偽・誤情報)は確かめてから使う	・セキュリティソフトやフィルタリングを適用させる等、情報を守る手段や方法を知り、使用できる ・共有範囲や権限を確認し、意図しない公開を防ぐ ・情報の特性の理解をふまえて、複数の情報源を比べ、確かめてから情報を使う	・セキュリティソフトやフィルタリング等、情報セキュリティ確保のための対策を自ら確認し、実施できる ・目的に応じてアプリやインターネット上のサービス等を選択して安全に利用できる ・情報の特性の理解をふまえて、多様なメディアを比較し信頼性を吟味して判断する(判断の留保・拡散しない判断を含む)	
N		安全(健康影響等)	・正しい姿勢で端末を使う ・むやみに長く使すぎない ・端末は両手で持って移動する、歩きながら使わない、不安定な場所に置かない、強い衝撃を与えない等、精密機械という認識を持ちながら丁寧に扱う	・端末の利用時間や使い方を振り返り、長時間利用による目の疲れ等健康や生活への影響を知り、自分なりの使い分け合い方を考える ・視力や姿勢、生活リズムなど健康との関わりを整理し、適切な利用時間のルールを考える	サービスには興味を強く引き付け続ける仕組みがあることに気づき、スクリーンタイム等の機能も活用しながら、健康的な生活のための使い方を見直そうとする	情報技術の使い方による健康への影響(心身を含む)を理解し、スクリーンタイムや通知設定等の機能も活用しながら、便利に活用しつつ健康にも配慮する工夫やルールを主体的に決め、実行できる	
③ 情報技術の特性の理解							
O	情報と社会のつながり	情報及びコンピュータの原理	タブレットや家電のボタンを押すと、いつも同じように動くことに気づく	身近な生活の中でコンピュータやAIがどんな場面で使われているかに気づき、デジタルの情報は複製・保存・共有をしても中身が変わらないことを知る	ネットワーク(サーバやケーブルのつながり)の仕組みを、身近な例(ブラウザ検索、動画視聴、クラウド共同編集等)をもとに理解するとともに、コンピュータが「入力→処理→出力」という手順で情報を扱っていることを知る	アナログの情報をデジタルデータに変換する仕組み(数値化・符号化)やコンピュータの基本構成を理解するとともに、コンピュータ・ネットワーク・AIが組み合わさって一つの情報システムとして機能する仕組みを理解する	
P		AI(人工知能)	お掃除ロボットや音声検索等、身近な道具にAIが使われていることに気づく	スマートフォンの顔認証や写真の自動整理等、日々使うアプリの中でAIが状況に応じて自分で判断していることに気づく	実際の出力に触れながら、AIが大量のデータから学んだ「傾向」をもとに確率的に予測・生成していることを理解するとともに、出力に誤りや偏り(ハルシネーション等)が含まれる場合があることを理解する	AIが大量のデータを学習して予測・生成する仕組みや、その出力に誤りや偏り(バイアス)が含まれる特性を理解したうえで、人間との適切な役割分担や社会に与える影響について考えることができる	
Q		アルゴリズム・プログラミング	着替えや朝の準備のように、物事にはいくつかの手順に分けられることに気づく	・おすすめや並び順が、自分の使い方(見た動画・押した「いいね」等)によって変わることがあることに気づく ・意図した動きを実現するために必要な手順を考えて図解したり、動きを小さな単位に分けたり、繰り返しの命令を組み合わせたりしながら、簡単なプログラムを作ることができる	・アルゴリズムによって、興味・関心に合った情報はかりが表示されるフィルターバブルや、同じ意見が強まりやすいエコーチェンバーが起こることを理解する ・複雑な動きを、フローチャート等を用いて手順や条件分岐を含めて表現し、取り組みやすい要素に分解したり記号や図に置き換えたりしながら、目的に応じて命令を効果的に組み合わせることでプログラムを作ることができる	・アルゴリズムが利用者の行動データをもとに情報を選び、利用時間やクリック数等を高めるように働くこと(アテンションエコノミー)を理解し、自分の情報の受け取り方や利用行動を主体的にコントロールしようとする ・生活や社会の中から課題を見いだし、処理の流れをアクティビティ図等で表現しながら、必要な機能への分解・抽象化やプログラミング言語等を用いた実装を行い、他者と協働して粘り強く評価・改善を重ねながらより良いプログラムを作ることができる	
R		③	デザイン	絵を描いたり写真を撮ったりするとき、見やすくなるように色や大きさを工夫する	見る人にわかりやすく伝わるように、レイアウトや色、文字の大きさ等を工夫して表現できる	目的や相手を意識して、情報の配置・色・文字等を工夫し、分かりやすく伝わる資料や作品にデザインできる	情報デザインの基本的な考え方(視認性・可読性・情報の階層構造等)を理解し、目的や利用者(相手)を意識したUX/UIの視点から工夫・改善できる ※UX(User Experience:使う人の体験)／UI(User Interface:画面や操作の見た目・配置)
S		データの扱い	・写真や作品等のデータは、残したり、移したり、共有したりできることに気づく ・保存したデータが、いつも自分だけのものとは限らないことにふれる	・クラウド等では、コピー・検索・共有が容易で、一度共有すると広がりやすい特性があることを理解する ・データには文書・画像・音楽・動画等種類があり、特徴に応じた扱い方があることを知る ・共有リンクや相手の選び方によって、見える人が変われることを理解する	・共有の権限や公開・非公開の違いを理解し、意図しない共有・公開が起きうることを説明できる ・データの種類や目的に応じて、表やグラフ等可視化の選び方で伝わり方が変われることを理解する ・特性(広がりやすさ・権限)を理解したうえで、共有・整理の選び方を説明できる	・データの構造や保存・管理・検索の仕組みを理解し、権限設計や暗号化等も含めて適切に扱える ・収集したデータと他の情報(生成AIによる分析結果等)を比較しながら、多角的にデータを捉え、新しい価値や解決策につなげようとする	
T		コミュニケーションやメディア	自分の好きなものを、絵や言葉で友達に伝える中で、伝え方によって伝わり方が違うことに気づく	文字・画像・音等の情報は、コンピュータで組み合わせたり加工したりできることを知り、情報の組み合わせ方によって分かりやすく相手に伝えられることを確かめる	画像・動画・音声等複数の表現メディアを編集・統合する方法を知り、情報の構成のしかたによって伝わり方が変われることを考える	・フィルターバブルやエコーチェンバーが、メディアを通じた意見形成や社会のつながりに影響していることを理解する ・メディアが民主主義社会において果たす役割や機能、情報技術の発展とメディアの関係について理解する	
U		社会的役割	自動運転車やテレビ電話等、身近な例からデジタルで生活が便利になっていることを感じる	情報技術が社会の仕組み(お店のレジ、交通機関等)を支えていることを知る	身近な情報技術が社会でどのような役割を果たしているかを捉え、これからの社会でどう役立っていくとよいかを考えることができる	情報技術が社会を変革する意義(DX)や、持続可能な社会(SDGs)への貢献、情報セキュリティの重要性を理解する ※DX(Digital Transformation):デジタル技術を活用して、社会や組織の仕組み・働き方・サービスが変わること	

✓小学校段階(STEP1～3)……………体験的な活動を重視し、「①活用」を中核としながら、「②適切な取扱い」、「③特性の理解」と相まって培う

✓中学校段階(STEP4)以降…各要素の内容を深めつつ、より抽象的・科学的な理解を必要とする「③特性の理解」を一層重視

守口市 情報活用能力 ステップシート(児童生徒用)



マンガでわかる！
もりもりの探究冒険記⑤
『覚醒！4つのデジタルスキルと
情報ダンジョン編』はコチラ

No	分類	スキル	STEP1(1・2年)	熟練度 ☆をぬろう	STEP2(3・4年)	熟練度 ☆をぬろう	STEP3(5・6年)	熟練度 ☆をぬろう	STEP4(中学生)	熟練度 ☆をぬろう
めあて			「使ってみる・慣れる」 ー 写真をとったり文字を入力したり、きまりを守ったりして、デジタルツールの使い方に慣れよう	★＝がんばりたい ★★＝できた ★★★＝バッチリ	「集めて、くらべる」 ー 自分で情報を集めて比べたり、いろいろなデジタルツールやそのしぐみに触れよう	★＝がんばりたい ★★＝できた ★★★＝バッチリ	「整理して、伝える」 ー 集めた情報を整理して、正しさや偏りも考えながら、相手に伝えられるようになるう	★＝がんばりたい ★★＝できた ★★★＝バッチリ	「判断して、活かす」 ー 情報が正しいか自分で判断し、しくみも理解しながら、社会の中で責任をもって使えるようになるう	★＝がんばりたい ★★＝できた ★★★＝バッチリ
① 情報技術の活用(デジタルを使う基本の力)										
A		課題を見つける	自分のことや身の回りの出来事から、疑問を持てる	☆☆☆	地域の出来事について、課題を考えられる	☆☆☆	日本や世界の出来事について、課題を考えられる	☆☆☆	複雑な社会課題について、いろいろな見方で課題を考えられる	☆☆☆
B		情報を集める	・本やインタビュー、観察、インターネットなどで情報を集め、絵や言葉で記録できる ・図書館のきまりを守って利用できる	☆☆☆	・複数の方法(本・インターネット・インタビュー・実験・見学など)を組み合わせて情報を集め、記録できる ・図書館の本の分類や資料の使い方がわかる ・信頼できる情報源を選んだり、情報の出どころなどを確認できる	☆☆☆	・調査の方法を選び、情報を適切に集めて確かめられる ・日本十進分類法などを理解し、目的に応じて図書館・博物館などを利用できる ・複数の情報源について、出典などを記録しながら集められる	☆☆☆	・統計なども使って、必要な情報を考えながら調査を計画・実施できる ・複数の資料やメディアを比較しながら、課題解決に各種施設を活用できる ・情報やメディアの特性をふまえ、目的に応じた方法で効果的に集められる	☆☆☆
C		整理して考える	・絵や図・表・グラフ・思考ツールなどを使って情報を整理できる ・情報どうしの共通点やちがいが、順序に気づける	☆☆☆	・カードや図・表・グラフなど(思考ツール含む)で情報を整理できる ・複数の情報を比べて傾向や共通点・相違点を見つけれられる ・全体と中心など、情報と情報の関係を捉えられる	☆☆☆	・複数の図・表・グラフなど(思考ツール含む)を比較しながら、情報を整理できる ・原因と結果など、情報と情報のつながりを考えられる ・集めた情報について論理的に考察できる	☆☆☆	・目的に応じて図・表・グラフなど(思考ツール含む)を使い分けながら、複数のデータを統計的に整理・分析できる ・意見と根拠、具体と抽象などのつながりを考えられる ・集めた資料をいろいろな角度から考え、新しい意味を見つけられる	☆☆☆
D		まとめて伝える	・伝えたいことを一つ決めて表そうとする ・わかったことを簡単な言葉でまとめられる ・絵や写真、音声、文字などを使って自分なりに表現できる	☆☆☆	・伝えたいことを整理して、理由やわけも伝えることができる ・複数の情報を比較し、関連付けて、新しい発見をまとめられる ・相手を意識して、新聞やポスター、リーフレット、スライドなどの伝え方を選べる	☆☆☆	・伝えたい主題を明確にし、理由や根拠を示しながら筋道立てて説明できる ・複数のソフトを使い分けて、報告文やポスターセッションで表現できる	☆☆☆	・根拠に基づいて論理的に説明できる ・わかったことや自分の考えをまとめ、表現できる ・相手や目的に応じて、Webサイトなども含めた効果的で創造的な表現方法を選べる	☆☆☆
E		① 振り返る	・振り返って感想を言える ・写真や記録を見返して、自分の成長に気づける	☆☆☆	振り返って、改善点を見つけられる	☆☆☆	・振り返って、効果や工夫した点に気づける ・新しくできるようになった操作や工夫に気づける	☆☆☆	・観点を決めて評価し、改善できる ・身につけた力を自覚し、言葉で説明できる ・次の学習や生活にどう生かすか考えられる	☆☆☆
F		入力する	起動・終了、写真撮影、音声・ひらがな入力などの基本操作ができる	☆☆☆	・キーボードで漢字を含む文章を1分間に20文字程度入力できる(または別の方法で同程度の文章入力ができる) ・ホームポジションを意識しながら入力しようとする	☆☆☆	・1分間に60文字程度入力でき、状況に合った入力方法を選ぶ ・コピー・貼り付け・元に戻すなど、よく使うショートカットキーを使える	☆☆☆	・1分間に100文字程度入力でき、状況に合った入力方法を選ぶ ・自分がよく使うショートカットを見つけて使い、効率よく入力・作業できる	☆☆☆
G		アプリを使う	ブラウザやカメラなど基本のアプリを使える	☆☆☆	文書作成、表計算、スライド、アンケートアプリなどを使える	☆☆☆	目的に応じて録画・録音、動画編集なども選んで使える	☆☆☆	複数のアプリを組み合わせて使える	☆☆☆
H		検索する	インターネットの情報を見られる	☆☆☆	・キーワードで検索できる ・AI検索とWebサイトの情報は違うことがあると知る	☆☆☆	・複数のキーワードで検索できる ・AI検索は、間違っていたり古い情報が含まれていたりとすることがあると理解する	☆☆☆	目的に応じて、キーワード検索・AI検索などを適切に使い分けられる	☆☆☆
I		データを保存する	・写真・ファイルの呼び出しや保存ができる ・データに名前や日付をつけて整理できる	☆☆☆	クラウドでファイルの検索・共有・共同編集ができる	☆☆☆	クラウドでファイルやフォルダを管理できる	☆☆☆	フォルダを規則的に作ったり、圧縮やパスワード設定などの管理ができる	☆☆☆
J		端末を設定する	画面の明るさや音量を変えると見え方・聞こえ方が変わることに気づく	☆☆☆	文字の大きさや音声読み上げなどの設定を試して、自分に合った設定を選べる	☆☆☆	自分に合った設定を選び、相手や目的に応じて伝え方や設定を工夫できる	☆☆☆	場面に応じて、スクリーンリーダーや字幕、拡大表示などの支援機能を適切に選んで設定できる	☆☆☆
② 情報技術の適切な取扱い(正しく安全に使う力)										
K		法や制度 個人情報を守る	・写真や作品、名前などをとったり伝えたりするときは、相手に許可をもらうなど、きまりがあることを知る ・名前や住所など、人に勝手に伝えてはいけない個人情報があることを知り、正しく扱う	☆☆☆	・他人の情報を使うときは引用・出典を書く必要があることを知る ・個人情報を安易に提供しないことの大切さがわかる ・デジタルには作った人の権利があることを知る	☆☆☆	・著作権・肖像権・個人情報など、権利の種類と大切さを理解できる ・身近な場面でどの権利が関係するか説明できる	☆☆☆	・権利や法・制度が情報社会に与える影響を説明できる ・法や制度は権利を守るだけでなく、新しい表現やサービスを生み出す土台にもなることを理解する ・生成AIが作った文章や画像の利用ルールを確認し、説明できる	☆☆☆
L		② 倫理 マナーを守り、 責任をもって使う	友だちが困ることやいやな思いをすることを考え、他の人の端末や情報をていねいに使おうとする	☆☆☆	・共同編集で相手が困らない使い方を心がける ・公開や書き込みが与える影響を考える ・むやみに送る・見せる・公開すると、相手を傷つけることがあるとわかる	☆☆☆	・場に応じたマナーを守り、責任ある使い方ができる ・公開・拡散する前に社会への影響を考えられる	☆☆☆	・責任をもって適切に判断・行動できる ・誤情報や傷つく内容を拡散しない、安易に公開しないなど、社会への影響を考えて行動できる ・情報や情報技術を、よりよい社会をつくるために責任をもって生かそうとする	☆☆☆
M		安全 情報を安全に扱い、正しさを 確かめる(セキュリティ)	・ルールを守って端末を正しく使える ・IDやパスワードをむやみに人に教えない ・正しくない情報があることを知る	☆☆☆	・パスワードの管理や共有範囲の確認ができる ・あやしいサイトやメッセージ、正しくない情報に気がつけられる	☆☆☆	・セキュリティソフトやフィルタリングを使える ・共有する範囲を確認し、うっかり公開しないようにできる ・複数の情報源を比べて確かめてから使える	☆☆☆	・セキュリティ対策を自分で確認し実施できる ・目的に応じてアプリやサービスを選び、安全に利用できる ・多様なメディアを比較し信頼性を吟味して判断できる	☆☆☆
N		心と体の健康に 気をつけて使う	・正しい姿勢で端末を使う ・むやみに長く使すぎない ・端末を丁寧に扱う	☆☆☆	端末の利用時間や使い方を振り返り、健康への影響を知って、付き合い方を考えられる	☆☆☆	サービスには興味を引くしくみがあることに気づき、スクリーンタイムなどの機能も活用し、健康的な生活のための使い方を見直そうとする	☆☆☆	健康への影響を理解し、便利さと健康のバランスを考えたルールを主体的に決めて実行できる	☆☆☆
③ 情報技術の特性の理解(しくみや特性を知る力)										
O		コンピュータのしくみ	タブレットや家電のボタンを押すと、いつも同じように動くことに気づく	☆☆☆	身近な生活の中でコンピュータやAIが使われていることに気づき、デジタルの情報はコピーしても中身が変わらないことを知る	☆☆☆	・インターネットのしくみを、身近な例(検索・動画視聴・クラウド共同編集など)から理解できる ・コンピュータが「入力→処理→出力」という順番で情報を扱っていることを知る	☆☆☆	・アナログの情報をデジタルデータに変えるしくみ(数値化・符号化)やコンピュータの基本構成を理解できる ・コンピュータ・ネットワーク・AIが組み合わさって動くしくみを理解できる	☆☆☆
P		AI(人工知能)	お掃除ロボットや音声検索など、身近な道具にAIが使われていることに気づく	☆☆☆	スマホの顔認証や写真の整理など、アプリの中でAIが判断していることに気づく	☆☆☆	AIが大量のデータから学んだ「傾向」をもとに予測・生成していることを理解し、出力に誤りや偏りがあることも理解する	☆☆☆	AIのしくみや誤り・偏りの特性を理解したうえで、人との役割分担や社会への影響を考えられる	☆☆☆
Q		アルゴリズム・プログラミング	着替えや朝の準備のように、物事はいくつかの手順に分けられることに気づく	☆☆☆	・おすすめや並び順が自分の使い方で変わること気づく ・手順を考えて図にしたり、動きを分けたり組み合わせたりして簡単なプログラムを作る	☆☆☆	・フィルターバブルやエコーチェンバーが起こるしくみを理解する ・図を使って条件によって変わる手順を表し、工夫してプログラムを作る	☆☆☆	・アルゴリズムが利用時間を増やすように働くこと(アテンションエコノミー)を理解し、自分の利用行動をコントロールしようとする ・課題を見つけて処理の流れを図で表し、みんなで協力しながらプログラムを作る	☆☆☆
R		③ デザイン(伝える工夫)	絵をかいいたり写真をとったりするとき、見やすくなるように色や大きさを工夫する	☆☆☆	見やすく伝わるように、配置や色、文字の大きさを工夫して表現できる	☆☆☆	目的や相手を意識して、わかりやすく伝わる資料をデザインできる	☆☆☆	見やすさ・わかりやすさを考えたデザインの基本を理解し、相手を意識して工夫・改善できる	☆☆☆
S		データの扱い	・写真や作品のデータは残したり、共有したりできることに気づく ・保存したデータが自分だけのものとは限らないことを知る	☆☆☆	・クラウドではコピーや共有がしやすく、一度共有すると広がりやすいことを理解する ・データには種類があり、特徴に応じた扱い方があることを知る ・共有リンクや相手の選び方で、見える人が変わることを理解する	☆☆☆	・共有の範囲や公開・非公開の違いを理解できる ・データの種類や目的に応じて、表やグラフに可視化できる ・特性(広がり・権限)を理解し、共有・整理の選び方を説明できる	☆☆☆	・データのしくみを理解し、権限設定や暗号化なども含めて適切に扱える ・集めたデータと他の情報を比べて、多角的に活用できる	☆☆☆
T		情報と社会のつながり コミュニケーションや メディア	自分の好きなものを友だちに伝える中で、伝え方によって伝わり方が違うことに気づく	☆☆☆	文字・画像・音はコンピュータで組み合わせたり加工したりできることがわかる	☆☆☆	画像・動画・音声を編集する方法を知り、伝え方によって印象が変わることを考えられる	☆☆☆	・フィルターバブルやエコーチェンバーが意見形成に影響することを理解する ・メディアが民主主義社会で果たす役割を理解する	☆☆☆
U		社会での役割	自動運転車やテレビ電話など、身近な例からデジタルの便利さを感じる	☆☆☆	情報技術が社会のしくみ(お店のレジ、交通機関など)を支えていることがわかる	☆☆☆	身近な情報技術が社会でどんな役割を果たしているか考えられる	☆☆☆	情報技術が社会を変える意義(DX)や、持続可能な社会(SDGs)への貢献、情報セキュリティの大切さを理解できる	☆☆☆

※ここで示しているスキルは例であると同時にお互いに関わり合っています。(②正しく安全に使う力 や ③しくみ・特性を知る力 が高まると、①デジタルをよりよく活用 できるようになります。組み合わせてよりよく使ったり、例にないスキルも気づいたらどんどん書き込んでみてください！)

もりぐちし じょうほうかつようのうりよく ステップシート(1ねんせい)

No	カテゴリー	スキル	ステップ1(1ねんせい)	じゅくれんど ☆を めろう
めあて			「つかってみる・なれる」 ー しゃしんを とったり もじを にゅうりよくしたり、 きまりを まもつたりして、 デジタルツールの つかいかたに なれよう	めやす ★=がんばりたい ★★=できた ★★★=バッチリ
① じょうほうぎじゅつの かつよう(デジタルを つかう きほんの ちから)				
A		かだいを みつける	じぶんの ことや みのまわりの できごとから、 ぎもんを もてる	☆☆☆
B		じょうほうを あつめる	・ほんや インタビュー、 かんさつ、 インターネットなどで じょうほうを あつめ、 えや ことばで きろくできる ・ としょかんの きまりを まもって りようできる	☆☆☆
C		せいりして かんがえる	・えや ず・ひょう・グラフ・しこうツール などを つかって じょうほうを せいりできる ・じょうほうどうしの きょうつうてんや ちがいを、 じゅんじよに きづける	☆☆☆
D		まとめて つたえる	・つたえたいことを ひとつ きめて あらわそうとする ・わかったことを かんたんな ことばで まとめられる ・えや しゃしん、 おんせい、 もじなどを つかって じぶんなりに ひょうげんできる	☆☆☆
E		ふりかえる	・ふりかえて かんそうを いえる ・しゃしんや きろくを みかえして、 じぶんの せいちように きづける	☆☆☆
F		にゅうりよくする	きどう・しゅうりよう、 しゃしんさつえい、 おんせい・ひらがな にゅうりよくなどの きほんそうさが できる	☆☆☆
G		アプリを つかう	ブラウザや カメラなど きほんの アプリを つかえる	☆☆☆
H		けんさくする	インターネットの じょうほうを みられる	☆☆☆
I		データを ほぞんする	・しゃしん・ファイルの よびだしや ほぞんが できる ・データに なまえや ひづけを つけて せいりできる	☆☆☆
J		たんまつを せっている	がめんの あかるさや おんりょうを かえると みえかた・きこえかたが かわることに きづく	☆☆☆
② じょうほうぎじゅつの てきせつな とりあつかい (ただしく あんぜんに つかう ちから)				
K		ほうや せいど	ルールや けんり、 こじん じょうほうを まもる	☆☆☆
L		りんり	マナーを まもり、 せきにんを もって つかう	☆☆☆
M		あんぜん	じょうほうを あんぜんに あつかい、 ただしさを たしかめる	☆☆☆
N		こころと からだの けんこうに きをつけて つかう	・ただしい しせいで ていねいに たんまつを つかえる ・むやみに ながく つかいすぎない ・たんまつを ていねいに あつかう	☆☆☆
③ じょうほうぎじゅつの とくせいの りかい(しくみや とくせいを しる ちから)				
O		コンピュータ・AIの しくみ	タブレットや かでの ボタンを おすと、 いつも おなじように うごくことに きづく	☆☆☆
P		AI(じんこうちのう)	おそうじ ロボットや おんせいけんさくなど、 みちかな どうぐに AIが つかわれていることに きづく	☆☆☆
Q		プログラミング・アルゴリズム	きがえや あさの じゅんびのように、 ものごとは いくつかの ていじゅんに わけられることに きづく	☆☆☆
R		デザイン(つたえる くふう)	えをかいたり しゃしんをとったりするとき、 みやすくなるように いろやおおきさを くふうする	☆☆☆
S		データの あつかい	・しゃしんや さくひんの データは のこしたり、 きょうゆうしたり できることに きづく ・ほぞんした データが じぶんだけの ものとは かぎらないことを しる	☆☆☆
T		コミュニケーションやメディア	じぶんの すきなものを ともだちに つたえるなかで、 つたえかたによって つたわりかたが ちがうことに きづく	☆☆☆
U		しゃかいでの やくわり	じどううんてんしゃや テレビでんわなど、 みちかな れいから デジタルの べんりさを かんじる	☆☆☆

守口市 情報活用能力 育成ステップシート(2年生(ねんせい))

No	カテゴリー	スキル	STEP1(2年生(ねんせい))	熟練度(じゅくれんど) ☆をぬろう	
めあて			「使(つか)ってみる・慣(な)れる」 ー 写真(しゃしん)をとったり文字(もじ)を入力(にゅうりょく)したり、きまりを守(まも)った りして、デジタルツールの使(つか)い方(かた)に慣(な)れよう	めやす ★=がんばりたい ★★=できた ★★★=バッチリ	
① 情報(じょうほう)技術(ぎじゅつ)の活用(かつよう) (デジタルを使(つか)う基本(きほん)の力)					
A	①	課題(かだい)を見つける	自分(じぶん)のことや身の回り(みのまわり)の出来事(できごと)から、疑問(ぎもん)を持(も)てる	☆☆☆	
B		情報(じょうほう)を集(あつ)める	・本やインタビュー、観察(かんさつ)、インターネットなどで情報(じょうほう)を集(あつ)め、絵(え)や言葉(ことば)で記録(きろく)できる ・図書館(としょかん)のきまりを守(まも)って利用(りよう)できる	☆☆☆	
C		整理(せいり)して考(かん)がえる	・絵(え)や図(ず)・表(ひょう)・グラフ・思考(しこう)ツールなどを使(つか)って情報(じょうほう)を整理(せいり)できる ・情報(じょうほう)どうしの共通点(きょうつうてん)やちがひ、順序(じゅんじょ)に気づける	☆☆☆	
D		まとめて伝(つた)える	・伝(つた)えたいことを一つ決(き)めて表(あらわ)そうとする ・わかったことを簡単(かんたん)な言葉(ことば)でまとめられる ・絵(え)や写真(しゃしん)、音声(おんせい)、文字(もじ)などを使(つか)って自分(じぶん)なりに表 現(ひょうげん)できる	☆☆☆	
E		振(ふ)り返(かえ)る	・振(ふ)り返(かえ)って感想(かんそう)を言(い)える ・写真(しゃしん)や記録(きろく)を見返(みかえ)して、自分(じぶん)の成長(せいちょう)に気づける	☆☆☆	
F		入力(にゅうりょく)する	起動(きどう)・終了(しゅうりょう)、写真撮影(しゃしんさつえい)、音声(おんせい)・ひらがな入力 (にゅうりょく)などの基本操作(きほんそうさ)ができる	☆☆☆	
G	ICTの基本的(きほんてき)な操作(そうさ)	アプリを使(つか)う	ブラウザやカメラなど基本(きほん)のアプリを使(つか)える	☆☆☆	
H		検索(けんさく)する	インターネットの情報(じょうほう)を見られる	☆☆☆	
I		データを保存(ほぞん)する	・写真(しゃしん)・ファイルの呼び出し(よびだし)や保存(ほぞん)ができる ・データに名前(なまえ)や日付(ひづけ)をつけて整理(せいり)できる	☆☆☆	
J		端末(たんまつ)を設定(せってい)する	画面(がめん)の明(あか)るさや音量(おんりょう)を変(か)えると見え方(みえかた)・聞こえ方(きこえかた)が変(か)わることに気づく	☆☆☆	
② 情報(じょうほう)技術(ぎじゅつ)の適切(てきせつ)な取(と)り扱(あつか)い (正(ただ)しく安全(あんぜん)に使(つか)う力)					
K	②	法(ほう)や制度(せいど)	・写真(しゃしん)や作品(さくひん)、名前(なまえ)などをとったり伝(つた)えたりするときは、相手 (あいて)に許可(きょか)をもらうなど、きまりがあることを知(し)る ・名前(なまえ)や住所(じゅうしょ)など、人(ひと)に勝手(かって)に伝(つた)えてはいけない個人 情報(こじんじょうほう)があることを知(し)り、正(ただ)しく扱(あつか)う	☆☆☆	
L		倫理(りんり)	・友(とも)だちが困(こま)ることやいやな思(おも)いをするここと考(かん)がえ、他(ほか)の人(ひと) の端末(たんまつ)や情報(じょうほう)をていねいに使(つか)おうとする	☆☆☆	
M		安全(あんぜん)	・ルールを守(まも)って端末(たんまつ)を正(ただ)しく使(つか)える ・IDやパスワードをむやみに人(ひと)に教(おし)えない ・正(ただ)しくない情報(じょうほう)があることを知(し)る	☆☆☆	
N		心(こころ)と体(からだ)の健康(けんこう)に気(き)をつけて使(つか)う	・正(ただ)しい姿勢(しせい)で端末(たんまつ)を使(つか)える ・むやみに長(なが)く使(つか)いすぎない ・端末(たんまつ)をていねいに扱(あつか)う	☆☆☆	
③ 情報(じょうほう)技術(ぎじゅつ)の特性(とくせい)の理解(りかい) (しくみや特性(とくせい)を知(し)る力)					
O	③	コンピュータ・AIのしくみ	タブレットや家電(かでん)のボタンを押(お)すと、いつも同(おな)じように動(うご)くことに気づく	☆☆☆	
P		AI(人工知能(じんこうちのう))	お掃除(そうじ)ロボットや音声(おんせい)検索(けんさく)など、身近(みぢか)な道具(どうぐ)にAI が使(つか)われていることに気づく	☆☆☆	
Q		情報(じょうほう)デザインの特性(とくせい)	プログラミング・アルゴリズム	着替(きが)えや朝(あさ)の準備(じゅんび)のように、物事(ものごと)はいくつかの手順(てじゅん) に分(わ)けられることに気(き)づく	☆☆☆
R		デザイン(伝(つた)える工夫(くふう))	絵(え)をかいたり写真(しゃしん)をとったりするとき、見(み)やすくなるように色(いろ)や大(お) きさを工夫(くふう)する	☆☆☆	
S		データの扱(あつか)い	・写真(しゃしん)や作品(さくひん)のデータは残(のこ)したり、共有(きょうゆう)したりできるこ とに気(き)づく ・保存(ほぞん)したデータが自分(じぶん)だけのものとは限(かぎ)らないことを知(し)る	☆☆☆	
T		情報(じょうほう)と社会(しゃかい)のつながり	コミュニケーションやメディア	自分(じぶん)の好(す)きなものを友(とも)だちに伝(つた)える中(なか)で、伝(つた)え方(かた) によって伝(つた)わり方(かた)が違(ちが)うことに気づく	☆☆☆
U		社会(しゃかい)での役割(やくわり)	自動運転車(じどううんてんしゃ)やテレビ電話(でんわ)など、身近(みぢか)な例(れい)からデジ タルの便利(べんり)さを感じ(かん)じる	☆☆☆	

守口市 情報活用能力 育成ステップシート(3・4年生)

No	カテゴリー	スキル	STEP2(3・4年生)	熟練度(じゅくれんど) ☆をぬろう
めあて			「集めて、比べる」 —自分で情報を集めて比(くら)べたり、いろいろなデジタルツールやそのしくみに触(ふ)れよう	めやす ★=がんばりたい ★★=できた ★★★=バッチリ
① 情報技術の活用(デジタルを使う基本の力)				
A	 探究的な学び方	課題を見つける	地域(ちいき)の出来事(できごと)について、課題を考えられる	☆☆☆
B		情報を集める	・複数(ふくすう)の方法(本・インターネット・インタビュー・実験・見学等)を組み合わせで情報を集め、記録できる ・図書館の本の分類(ぶんるい)や資料(しりょう)の使い方がわかる ・信頼(しんらい)できる情報源を選んだり、情報の出どころなどを確認でき	☆☆☆
C		整理して考える	・カードや図・表・グラフなど(思考ツール含む)で情報を整理できる ・複数(ふくすう)の情報を比(くら)べて傾向(けいこう)や共通点・相違点(そういてん)を見つづけられる ・全体と中心など、情報と情報の関係を捉えられる	☆☆☆
D		まとめて伝える	・伝えたいことを整理して、理由やわけも伝えることができる ・複数(ふくすう)の情報を比較(ひかく)し、関連付けて、新しい発見をまとめられる ・相手を意識(いしき)して、新聞やポスター、リーフレット、スライドなどの伝え方を選べる	☆☆☆
E		振り返る	振(ふ)り返って、改善(かいぜん)点を見つづけられる	☆☆☆
F	 ICTの基本的な操作	入力する	・キーボードで漢字を含(ふく)む文章を1分間に20文字程度(ていど)入力できる(または別の方法で同程度(ていど)の文章入力ができる) ・ホームポジションを意識(いしき)しながら入力しようとする	☆☆☆
G		アプリを使う	文書作成、表計算、スライド、アンケートアプリなどを使える	☆☆☆
H		検索(けんさく)する	・キーワードで検索できる ・AI検索(けんさく)とWebサイトの情報は違うことがあると知る	☆☆☆
I		データを保存する	クラウドでファイルの検索(けんさく)・共有・共同編集(へんしゅう)ができる	☆☆☆
J		端末を設定する	文字の大きさや音声読み上げなどの設定を試(ため)して、自分に合った設定を選べる	☆☆☆
② 情報技術の適切な取扱い(正しく安全に使う力)				
K	 倫理 安全	ルールや権利、個人情報を守る	・他人の情報を使うときは引用・出典(しゅってん)を書く必要があることを知る ・個人情報(あんい)を安易(あんい)に提供(ていきょう)しないことの大切さがわかる ・デジタルには作った人の権利(けんり)があることを知る	☆☆☆
L		マナーを守り、責任をもって使う	・共同編集(へんしゅう)で相手が困(こま)らない使い方を心がける ・公開(こうかい)や書き込みが与(あた)える影響(えいきょう)を考える ・むやみに送る・見せる・公開すると、相手を傷(きず)つけることがあるとわかる	☆☆☆
M		情報を安全に扱い、正しさを確かめる(セキュリティ)	・パスワードの管理(かんり)や共有範囲(はんい)の確認(かくにん)ができる ・あやしいサイトやメッセージに気をつけられる	☆☆☆
N		心と体の健康に気をつけて使う	端末(たんまつ)の利用時間や使い方を振(ふ)り返り、健康への影響(えいきょう)を知って、付き合い方を考えられる	☆☆☆
③ 情報技術の特性の理解(しくみや特性を知る力)				
O	 コンピュータ・AIのしくみ	コンピュータのしくみ	身近な生活の中でコンピュータやAIが使われていることに気づき、デジタルの情報はコピーしても中身が変わらないことを知る	☆☆☆
P		AI(人工知能)	スマホの顔認証(かおにんしょう)や写真の整理など、アプリの中でAIが判断(はんだん)していることに気づく	☆☆☆
Q	 情報デザインの特性	プログラミング・アルゴリズム	・おすすめや並(なら)び順が自分の使い方と変わること気づく ・手順を考えて図にしたり、動きを分けたり組み合わせたりして簡単(かんたん)なプログラムを作る	☆☆☆
R		デザイン(伝える工夫)	見やすく伝わるように、配置や色、文字の大きさを工夫して表現できる	☆☆☆
S		データの扱い	・クラウドではコピーや共有がしやすく、一度共有すると広がりやすいことを理解する ・データには種類(しゅるい)があり、特徴(とくちょう)に応じた扱(あつか)いがあることを知る ・共有リンクや相手の選び方で、見える人が変わることを理解する	☆☆☆
T		コミュニケーションやメディア	文字・画像(がぞう)・音はコンピュータで組み合わせたり加工したりできることがわかる	☆☆☆
U	 情報と社会のつながり	社会での役割	情報技術(ぎじゅつ)が社会のしくみ(お店のレジ、交通機関など)を支(ささ)えていることがわかる	☆☆☆

守口市 情報活用能力 育成ステップシート(5・6年生)

No	カテゴリー	スキル	STEP3(5・6年生)	熟練度 ☆をぬろう
めあて			「整理して、伝える」 ー 集めた情報を整理して、正しさや偏(かたよ)りも考えながら、相手に伝えられるようになるう	めやす ★=がんばりたい ★★=できた ★★★=バッチリ
① 情報技術の活用(デジタルを使う基本の力)				
A	 探究的な学び方	課題を見つける	日本や世界の出来事について、課題を考えられる	☆☆☆
B		情報を集める	・調査の方法を選び、情報を適切に集めて確かめられる ・日本十進分類法などを理解し、目的に応じて図書館・博物館などを利用できる ・複数の情報源について、出典などを記録しながら集められる	☆☆☆
C		整理して考える	・複数の図・表・グラフなど(思考ツール含む)を比較(ひかく)しながら、情報を整理できる ・原因と結果など、情報と情報のつながりを考えられる ・集めた情報について論理的に考察できる	☆☆☆
D		まとめて伝える	・伝えたい主題を明確にし、理由や根拠(きよ)を示しながら筋道(すじみち)立てて説明できる ・複数のソフトを使い分けて、報告文やポスターセッションで表現できる	☆☆☆
E		振り返る	・振り返って、効果や工夫した点に気づける ・新しくできるようになった操作や工夫に気づける	☆☆☆
F	 ICTの基本的な操作	入力する	・1分間に60文字程度入力でき、状況に合った入力方法を選べる ・コピー・貼(は)り付け・元に戻すなど、よく使うショートカットキーを使える	☆☆☆
G		アプリを使う	目的に応じて録画(ろくが)・録音(ろくおん)、動画編集(へんしゅう)なども選んで使える	☆☆☆
H		検索する	・複数のキーワードで検索できる ・AI検索は、間違(ちが)っていたり古い情報が含まれていたりすることがあると理解する	☆☆☆
I		データを保存する	クラウドでファイルやフォルダを管理(かんり)できる	☆☆☆
J		端末を設定する	自分に合った設定を選び、相手や目的に応じて伝え方や設定を工夫できる	☆☆☆
② 情報技術の適切な取扱い(正しく安全に使う力)				
K	 ② 倫理 安全	法や制度	ルールや権利、個人情報を守る ・著作権(ちよさくけん)・肖像権(しょうぞうけん)・個人情報など、権利の種類と大切さを理解できる ・身近な場面でどの権利が関係するか説明できる	☆☆☆
L		マナーを守り、責任をもって使う	・場に応じたマナーを守り、責任ある使い方ができる ・公開・拡散(かくさん)する前に社会への影響(えいきょう)を考えられる	☆☆☆
M		情報を安全に扱い、正しさを確かめる(セキュリティ)	・セキュリティソフトやフィルタリングを使える ・共有する範囲(はんい)を確認し、うっかり公開しないようにできる ・複数の情報源を比べて確かめてから使える	☆☆☆
N		心と体の健康に気をつけて使う	サービスには興味を引くしくみがあることに気づき、スクリーンタイムなどの機能も活用し、健康的な生活のための使い方を見直そうとする	☆☆☆
③ 情報技術の特性の理解(しくみや特性を知る力)				
O	 ③ コンピュータ・AIのしくみ 情報デザインの特性 情報と社会のつながり	コンピュータのしくみ	・インターネットのしくみを、身近な例(検索・動画視聴・クラウド共同編集など)から理解できる ・コンピュータが「入力→処理→出力」という順番で情報を扱(あつか)っていることを知る	☆☆☆
P		AI(人工知能)	AIが大量のデータから学んだ「傾向(けいこう)」をもとに予測・生成していることを理解し、誤(あやま)りや偏(かたよ)りがあることも理解する	☆☆☆
Q		プログラミング・アルゴリズム	・フィルターバブルやエコーチェンバーが起こるしくみを理解する ・図を使って条件によって変わる手順を表し、工夫してプログラムを作れる	☆☆☆
R		デザイン(伝える工夫)	目的や相手を意識して、わかりやすく伝わる資料をデザインできる	☆☆☆
S		データの扱い	・共有の範囲(はんい)や公開・非公開の違(ちが)いを理解できる ・データの種類や目的に応じて、表やグラフに可視化できる ・特性(広がり・権限)を理解し、共有・整理の選び方を説明できる	☆☆☆
T		コミュニケーションやメディア	画像・動画・音声編集(へんしゅう)する方法を知り、伝え方によって印象が変わることを考えられる	☆☆☆
U		社会での役割	身近な情報技術が社会でどんな役割を果たしているか考えられる	☆☆☆

守口市 情報活用能力 育成ステップシート(中学生)

No	カテゴリー	スキル	STEP4(中学生)	熟練度 ☆をめろう
めあて			「判断して、活かす」 ー 情報が正しいか自分で判断し、しくみも理解しながら、社会の中で責任をもって使えるようになる	めやす ★=がんばりたい ★★=できた ★★★=バッチリ
① 情報技術の活用(デジタルを使う基本の力)				
A		課題を見つける	複雑な社会課題について、いろいろな見方で課題を考えられる	☆☆☆
B		情報を集める	・統計なども使って、必要な情報を考えながら調査を計画・実施できる ・複数の資料やメディアを比較しながら、課題解決に各種施設を活用できる ・情報やメディアの特性をふまえ、目的に応じた方法で効果的に集められる	☆☆☆
C		整理して考える	・目的に応じて図・表・グラフなど(思考ツール含む)を使い分けながら、複数のデータを統計的に整理・分析できる ・意見と根拠、具体と抽象などのつながりを考えられる ・集めた資料をいろいろな角度から考え、新しい意味を見つけられる	☆☆☆
D		まとめて伝える	・根拠に基づいて論理的に説明できる ・わかったことや自分の考えをまとめ、表現できる ・相手や目的に応じて、Webサイトなども含めた効果的で創造的な表現方法を選べる	☆☆☆
E		振り返る	・観点を決めて評価し、改善できる ・身につけた力を自覚し、言葉で説明できる ・次の学習や生活にどう生かすか考えられる	☆☆☆
F		入力する	・1分間に100文字程度入力でき、状況に合った入力方法を選べる ・自分がよく使うショートカットを見つけて使い、効率よく入力・作業できる	☆☆☆
G		アプリを使う	複数のアプリを組み合わせて使える	☆☆☆
H		検索する	目的に応じて、キーワード検索・AI検索などを適切に使い分けられる	☆☆☆
I		データを保存する	フォルダを規則的に作ったり、圧縮(あつしゅく)やパスワード設定などの管理ができる	☆☆☆
J		端末を設定する	場面に応じて、スクリーンリーダーや字幕(じまく)、拡大表示などの支援機能を適切に選んで設定できる	☆☆☆
② 情報技術の適切な取扱い(正しく安全に使う力)				
K		法や制度	ルールや権利、個人情報を守る ・権利や法・制度が情報社会に与える影響を説明できる ・法や制度は権利を守るだけでなく、新しい表現やサービスを生み出す土台にもなることを理解する ・生成AIが作った文章や画像の利用ルールを確認し、説明できる	☆☆☆
L		倫理	マナーを守り、責任をもって使う ・責任をもって適切に判断・行動できる ・誤情報や傷つく内容を拡散しない、安易に公開しないなど、社会への影響を考えて行動できる ・情報や情報技術を、よりよい社会をつくるために責任をもって生かそうとする	☆☆☆
M		安全	情報を安全に扱い、正しさを確かめる(セキュリティ) ・セキュリティ対策を自分で確認し実施できる ・目的に応じてアプリやサービスを選び、安全に利用できる ・多様なメディアを比較し信頼性を吟味して判断できる	☆☆☆
N		心と体の健康に気をつけて使う	健康への影響を理解し、便利さと健康のバランスを考えたルールを主体的に決めて実行できる	☆☆☆
③ 情報技術の特性の理解(しくみや特性を知る力)				
O		コンピュータ・AIのしくみ	コンピュータのしくみ ・アナログの情報をデジタルデータに変えるしくみ(数値化・符号化)やコンピュータの基本構成を理解できる ・コンピュータ・ネットワーク・AIが組み合わさって動くしくみを理解できる AI(人工知能) AIのしくみや誤り・偏りの特性を理解したうえで、人との役割分担や社会への影響を考えられる	☆☆☆
P				☆☆☆
Q		情報デザインの特性	プログラミング・アルゴリズム ・アルゴリズムが利用時間を増やすように働くこと(アテンションエコノミー)を理解し、自分の利用行動をコントロールしようとする ・課題を見つけて処理の流れを図で表し、みんなで協力しながらプログラムを作れる	☆☆☆
R		デザイン(伝える工夫)	見やすさ・わかりやすさを考えたデザインの基本を理解し、相手を意識して工夫・改善できる	☆☆☆
S		データの扱い	・データのしくみを理解し、権限設定や暗号化なども含めて適切に扱える ・集めたデータと他の情報を比べて、多角的に活用できる	☆☆☆
T		情報と社会のつながり	コミュニケーションやメディア ・フィルターバブルやエコーチェンバーが意見形成に影響することを理解する ・メディアが民主主義社会で果たす役割を理解する	☆☆☆
U		社会での役割	情報技術が社会を変える意義(DX)や、持続可能な社会(SDGs)への貢献、情報セキュリティの大切さを理解できる	☆☆☆